

# 北斗遙かに

(昭和六十二年度寮歌)

佐久間朗君 作歌

吉田崇君 作曲

## 一

北斗遙かに広がる波濤煌く水平線  
移り行く天水渡る朔風嚴冬の記憶を留めれど  
新緑萌す曠野には若き生命の息吹あり  
嗚呼季節の芳香満つこの北の大地に  
新たなる夢を得て希望かなえん

## 二

北斗清かに見はるかす紺碧に滲む大空に  
輝く光彩燦爛と短き盛夏を彩りて  
涼風そよぐ窓下には緑滴る原始林  
嗚呼季節の恵み満つこの北の大地に  
新しき情熱もて真理求めん

## 三

北斗豊かに色づける黄金色の大沃野  
充足誘う黄昏に遠く彼方を見渡せば  
牧場を疾走る若駒の荒土蹴散らすその雄姿  
嗚呼季節の実り満つこの北の大地に  
新しき力得て正義貫かん

## 四

北斗果てなく包み込む荒び飛び散る猛吹雪  
物皆埋み凍てつかせ我らが前途閉ざせども  
ひたすら拓くその迪に放歌笑声絶ゆるなし  
嗚呼季節の憂愁満つこの北の大地に  
新しき意識もて自治を築かん